

浄土宗開宗850年慶讃事業

令和3年度

浄土宗高僧名号展

令和3年11月2日～7日  
京都市美術館別館

題字 浄土宗芸術家協会・荒木大樹

浄土宗では、令和6年の開宗850年に向けた記念事業として、全国の寺院の協力を得て、高僧の揮毫による名号を一堂に集め「名号展」を開催します。今号では第一回目となった「令和3年度浄土宗高僧名号展」に出陳された23点をご紹介します。さまざまな形であらわされた名号に込められた想いを、ぜひ感じてください。



- ① 総大本山・檀林住職
- ② 縦 63センチ 横 24センチ
- ③ 安楽寺(長野県駒ヶ根市)
- ④ 江戸(1700年代初頭)
- ⑤ 総本山知恩院と大本山百萬遍知恩寺、関東十八檀林18カ寺の住職揮毫の名号を貼り合わせたもの。



- ① 宮門跡六世 尊超法親王
- ② 縦 85センチ 横 30センチ
- ③ 正覺寺(大阪府守口市)
- ④ 江戸(1810年～1852年)
- ⑤ 尊超法親王は文化2年(1805)に知恩院宮(宮門跡)を相続。文化に造詣が深く、詩・書・彫刻などに優れていたとされる。



- ① 知恩院五十三世 巖堂順真
- ② 縦 125.3センチ 横 36.6センチ
- ③ 宝台院(静岡県葵区)
- ④ 江戸(1763年11月～1769年)
- ⑤ 今回の名号は「前大僧正」とあり、知恩院54世書誉沢真が宝暦13年11月に大僧正に任官されていることから、辞山以降の制作とされる。



- ① 知恩院七十三世 名譽学天
- ② 縦 119センチ 横 28センチ
- ③ 稱念寺(大阪市天王寺区)
- ④ 江戸～明治
- ⑤ 学問を推奨し、現在の佛教学、東山中学・高等学校の前身である勸学院を知恩院内に設置した。



- ① 知恩院七十五世 養鶴徹定
- ② 縦 135センチ 横 31.2センチ
- ③ 信重院(京都市東山区)
- ④ 明治17年(1884年9月)
- ⑤ 号は古経堂。古経蒐集を中心とする考証学的研究などをおこなった。知恩院に所蔵される古写経は、養鶴が集めたもの。



- ① 知恩院七十九世 山下現有
- ② 縦 136センチ 横 31センチ
- ③ 正覺院(京都府宇治市)
- ④ 明治～昭和(1902年～1934年)
- ⑤ 浄土宗管長・知恩院79世。一宗にとどまらず、仏教界の長老として敬われ、「生き仏」の尊称を受けた。今回の名号は知恩院住持のときのもの。



- ① 知恩院八十三世 岸信宏
- ② 縦 120センチ 横 33.5センチ
- ③ 西照寺(滋賀県東近江市)
- ④ 昭和47年(1972年7月)
- ⑤ 知恩院83世。昭和49年(1974)には浄土宗開宗800年慶讃大法要をつとめる。漢詩や和歌に造詣が深かった。



- ① 知恩院八十五世 藤井実応
- ② 縦 124.5センチ 横 38.7センチ
- ③ 大光院(神奈川県横浜)
- ④ 昭和～平成
- ⑤ 八方キ伝道など新しい布教活動を展開した。平成6年の平和観世音菩薩開眼記念に軸装された。



- ① 増上寺四十六世 妙譽定月
- ② 縦 113.1センチ 横 26.2センチ
- ③ 妙定院(東京都港区)
- ④ 明和7年(1770年)
- ⑤ 文化に造詣が深く書画を嗜み、仏画や名号などが数多く現存する。創建当時の妙定院をうかがえる風景画なども残されている。



- ① 増上寺五十三世 嶺譽智堂
- ② 縦 130センチ 横 37センチ
- ③ 蓮光寺(神奈川県鎌瀬市)
- ④ 江戸(1792年～1799年)
- ⑤ 安永4年(1775)に深川靈巖寺19世、寛政4年(1790)に小石川傳通院44世を経て、寛政2年(1792)に増上寺53世。



- ① 増上寺六十四世 梵譽密賢
- ② 縦 134センチ 横 42センチ
- ③ 正福寺(滋賀県東近江市)
- ④ 天保13年(1842)～15年(1844)
- ⑤ 滝山大善寺36世、瓜連常福寺62世、小石川傳通院56世を経て、増上寺64世。華頂宮家が創設され名譽学天とともに、和学御用掛に任命された。



- ① 増上寺七十七世 堀尾貫務
- ② 縦 132センチ 横 32センチ
- ③ 利益寺(千葉県香取市)
- ④ 大正6年(1917年)
- ⑤ 清浄華院64世、百萬遍知恩寺63世、増上寺77世を歴任。「選択集十六章図略解」を著し、国立図書館では、貫務の書を見ることができる。



- ① 増上寺七十九世 道重信教
- ② 縦 126.5センチ 横 30センチ
- ③ 金藏寺(東京都江戸川区)
- ④ 大正～昭和(1923年～1934年)
- ⑤ 大正12年(1923)に増上寺79世。日本初のラジオ法話や、関東大震災の死者を弔うため飛行機で上空からの回向を行った。



- ① 金戒光明寺四十五世 神譽感靈
- ② 縦 135.5センチ 横 30センチ
- ③ 西方院(大阪府南河内郡)
- ④ 江戸(1774年～1783年)
- ⑤ 金戒光明寺の本堂・方丈・庫裏焼失にもない、再建復興に尽力。今回の名号は、金戒光明寺住持時代のもの。



- ① 百萬遍知恩寺四十三世 然譽吟達
- ② 縦 139センチ 横 59センチ
- ③ 金剛寺(京都市東山区)
- ④ 正徳4年(1714年3月15日)
- ⑤ 裏書に「金剛寺で行われた三万日回向の記念として導師をした吟達が、この名号を書いた」と記されている。



- ① 百萬遍知恩寺四十三世 然譽吟達
- ② 縦 139センチ 横 59センチ
- ③ 金剛寺(京都市東山区)
- ④ 正徳4年(1714年3月15日)
- ⑤ 裏書に「金剛寺で行われた三万日回向の記念として導師をした吟達が、この名号を書いた」と記されている。

解説項目

- ① 揮毫者 ② 掛け軸の大きさ(本紙)
  - ③ 所蔵寺院 ④ 制作時代
  - ⑤ 揮毫者または名号の解説
- ※解説項目の情報は『新纂浄土宗大辞典』や、所蔵寺院への調査を基に作成。

名号について

「名号」と一言でいってもさまざまな「名号」があります。ただ「南無阿弥陀仏」と書かれたもの以外にも肖像画とともに書かれた名号や、「利剣名号」(悪因縁を断ち切るように鋭い字画で書かれたもの)、「骸骨名号」(南無阿弥陀仏を骸骨に見えるように文字絵で書かれたもの)など、デザイン性が高いものもあります。多くの高僧や名僧と呼ばれる方々は、さまざまに工夫をこらして、独自の書風、書体の名号を揮毫されてきました。そうした名号は、時に礼拝の対象として、時に「お念仏に触れてください。」

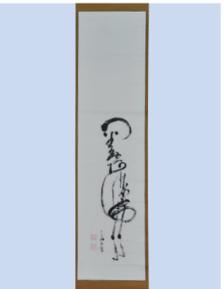
りとして、またある時にはお念仏との結縁の材料として、数百年にわたってお念仏の教えを広めるためにはたしてきた役割は極めて大きいものといえます。

法然上人は『選択集』のなかで「名号(南無阿弥陀仏)はこれ万徳の帰する所なり」と記され、その功德を大いにお認めになられました。

菩提寺などで名号をご覧になった際には、阿弥陀さまの「南無阿弥陀仏」となる者を必ず救う」と誓った大慈悲心を目と感じ、その大切さを心にため、法然上人が大切にされたお念仏に触れてください。



- ① 清浄華院七十六世 石橋誠道
- ② 縦 135センチ 横 33センチ
- ③ 自性院(京都市上京区)
- ④ 昭和38年(1963年)
- ⑤ 宗教大学研究科で浄土学のみならず天台学も修学した。昭和20年(1945)に清浄華院76世。今回の名号は、85歳の時に書かれたもの。



- ① 林祖洞
- ② 縦 137センチ 横 34センチ
- ③ 善明寺(岩手県遠野市)
- ④ 昭和初期
- ⑤ 大正大学や高千穂高等商業学校(現高千穂大学)で書の指導をし、泰東書道院・謙慎書道会の審査員を務め、門下は千人余りいた。



- ① 徳本
- ② 縦 105センチ 横 29.5センチ
- ③ 西光寺(石川県七尾市)
- ④ 江戸(不明)
- ⑤ 一所不住で、各地で教化を行ったため、独特な字体の名号や、名号の石塔が全国に数多く残されている。



- ① 最譽徳運
- ② 縦 122センチ 横 27.9センチ
- ③ 大頂寺(京都府宮津市)
- ④ 昭和30年代
- ⑤ 書や絵など文化に造詣が深く、丹後實巖寺やその檀家などには、徳運が書いた名号や法然上人の絵が今も残されているという。



- ① 白川恵宣
- ② 縦 113センチ 横 31センチ
- ③ 大超寺(愛媛県宇和島市)
- ④ 昭和30年代
- ⑤ 恵宣が大坂取泉寺から来迎寺へ移った時期から、昭和30年代に書かれたものとされる。



- ① 渡辺海旭
- ② 縦 124センチ 横 31センチ
- ③ 西念寺(長野県埴科郡)
- ④ 明治～昭和
- ⑤ 浄土宗第一期海外留学生としてドイツへ留学。仏教各語を研究し、仏教研究や宗教研究に従事。大正時代には新戒律主義、大乘仏教主義を提唱。



- ① 珂憶
- ② 縦 117センチ 横 29センチ
- ③ 大蓮寺(京都市伏見区)
- ④ 江戸(不明)
- ⑤ 尾張藩主徳川光友の帰依を受け、河内国安福寺を中興。元禄11年(1698)には、九品仏浄真寺の本堂と三仏堂を建立した。